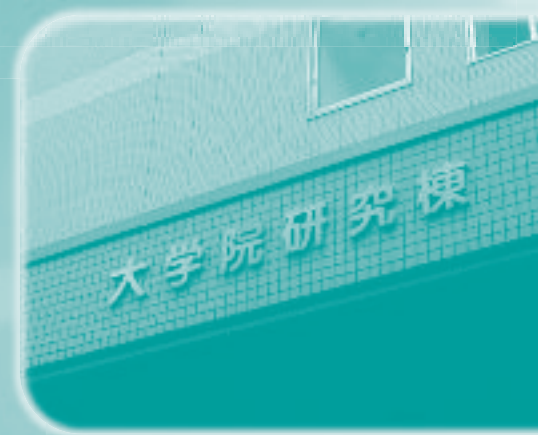


大学院要覧入学案内 2019

スポーツ科学研究科 修士課程

1年コース・2年コース



仙台大学大学院

目 次

建学の精神	1
基本理念	3
使命・目的	3
学長挨拶	4
スポーツ科学研究科 研究科長挨拶	5
沿 革	10
2年コース	12
1年コース	13
仙台大学大学院の特徴	14
仙台大学大学院スポーツ科学研究科の課程	15
開講科目一覧	15
講義概要	17
大学院担当教員と専門分野	26
非常勤講師	32

＜ 建学の精神 ＞

仙台大学の建学の精神は本来、本学の経営母体である学校法人朴沢学園（明治12年開設）の創始理念に由来しています。学園創始者は「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」という理念を基に先進的な女子教育を行い、寺子屋方式であった明治時代の裁縫教育に一代革新をもたらしたのです。その考え方は昭和42年、体育系単科大学として開学した仙台大学の母胎として受け継がれました。すなわち「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、このため心身の健康育成を特に重視した教育を実施する」ことを建学の精神として学内外に表明したのであります。これは戦後の学制改革以降の高等教育への展開において、大学開学の際、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に重点を置きつつ、実学に根ざした広い教育研究領域を探求することにより、朴沢学園の創設理念を継承しているところであります。

建学の精神は、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも端的、かつ明確に示されています。告辞の抜粋は次の通りです。「本学においては、自由を尊重するとともに、自律と義務履行に生きる、誠心に厚く、自己の智識と技術を通じて、国民の健康増進のために社会に貢献し、人類に奉仕する熱意を実践に移すことのできる男女人材の育成を使命としております」「大学も1つの理想を持たなければなりません。…良い意志を持ち、明らかな知性・思慮を有し、豊かな情操を養い、社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであります」「仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」

< 基本理念 >

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科でスタートしました。その後、平成7年度以降、順次、学科が増設され現在は5学科構成となっております。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科（修士課程）も新設されています。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定められたのが「スポーツ・フォア・オール」という言葉であります。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」という志向を意味します。

例えば乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして性別や障がいの有無を問わず、トップアスリートや、楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツを観ることが好きな人も、すべての人を対象としてスポーツを科学的に探究することを「スポーツ・フォア・オール」という言葉に託しております。

< 使命・目的 >

この理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、**仙台大学学則第2条**および**仙台大学大学院学則第1条**にそれぞれ示している。

（仙台大学学則第2条）

仙台大学は、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア及び現代武道に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

（仙台大学大学院学則第1条）

仙台大学大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養及びスポーツ情報マスメディアに関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有能な人材を育成することを目的とする。

大学院志望の皆様へ

仙台大学学長 遠藤保雄

我が国の直面する3つの大きな体育スポーツ・健康科学の教育研究の課題

今日の我が国の直面する体育スポーツ・健康科学の教育研究の課題は多岐にわたる。

第一は、2020東京オリンピック・パラリンピックまで2年弱となる中、2016年10月3日、鈴木大地スポーツ庁長官が発表した2020東京大会に向けた「競技力強化のための今後の支援方針」で示されている課題への挑戦だ。それは、国際的に選手強化が進む中、これに引けを取らない高度な競技力を有するトップアスリートの育成を体育スポーツ科学分野でいかに支援していくかであり、それは国にとってのレガシー（遺産）であり、スポーツ科学研究分野でのそれへの取り組みは大きな課題といえる。具体的には、コーチングなどの指導者・スタッフ育成の取組み、トレーニング強化のための取組み、スポーツの潜在能力を有した人材の発掘・育成、競技力強化環境の改善のための取組み、スポーツ医・科学サポート、スポーツ・インテリジェンスや情報戦略の高度化、スポーツ・インテグリティ、アンチ・ドーピングなどへの取組み、競技用具等の機能向上のためのマテリアル開発の取組み、スポーツ競技施設の改善整備や競技のマネジメント方式の改善などの課題は山積している。

第二は、高齢化社会の進行が急速に進む中、健康運動の全国的な展開などを通じ健康年齢の引き上げの実現を図りつつ、いかに健康な高齢化社会を作り上げるかという課題だ。孤独を感じるお年寄りを励まし、無理なく楽しく運動に取り組んでもらい健康を自らからの手で引き寄せていただくかである。そのため指導者をどう育て、健康運動の展開・定着をどういうシステムで実現していくか、運動メニューをどうするか、取り組むべきスポーツ健康科学上の研究課題は多い。

第三は、我が国の人口減少が不可避となり、その影響が地方社会経済の衰退という形で現実化する中、見る・する・支えるスポーツなどを核としたビジネスの導入振興を通じて地方創生を実現していくかということである。政策枠組みは論議され理念はできた。では、それに誰が具体的に魂を入れ地域の振興につなげるかである。その意味でのスポーツ科学分野での研究の進化は待ったなしの課題だ。

本学大学院が準備する2つの研究キャリア形成の道

本学の教育理念であるSports for allを踏まえ体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有能な人材の育成を目的とする、本学大学院（スポーツ科学研究科修士課程）は、以上のような課題に取り組むには、絶好の場といえる。しかも、このような課題への挑戦には、2段階の道を準備している。第一の道は、「キャリア支援科目」（職能開発）と「アカデミック支援科目」（専門的知識・技能修得）を提供し実践力と専門性の向上を目指す修士課程2年コースである。第二の道は、「学校教育」「スポーツプロモーション」「健康・体力支援」の3領域を設置し実務経験者を対象にした修士課程1年コースである。

本学大学院の持つその他の2つの機能にもぜひ着目を

そのほかにも、本大学院には次のような2つの特色ある機能がある。第一は、本学の大学院は昼間、夜間、昼夜共通の開講という3構成の時間割を準備していることから、社会人、現職教員などのリカレント教育の拠点としての役割を果たせる機能を有しているということである。

第二は、大学で教職一種免許を取得した者に対して、大学院の教職課程に開設する科目から一定単位を修得しスポーツ科学修士の学位を授与された場合には教職専修免許が取得できるみちがひらかれていることである。

いずれにせよ、本学の大学院の研究教育には本学の建学の精神「実学と創意工夫」が体化されている。ぜひ、多くの方にその門戸を叩いて頂きたいと考えている。

体育・スポーツおよび健康分野で活躍できる高度な専門的指導者の育成

スポーツ科学研究科 研究科長 藤井久雄

仙台大学大学院スポーツ科学研究科は、昭和42年に設置された仙台大学の30周年に当たる平成9年12月に文部省（現・文科省）より設置が認可され、翌年平成10年4月に開設いたしました。当初は、「2年コース」のみの入学定員9名（収容定員18名）でしたが、平成21年4月に増設された日本でもユニークな「1年コース」を含めて、入学定員が23名（収容定員46名）となり現在に至っています。

ところで、本大学院は、学則第1条でも示すように「広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディアおよび現代武道に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツおよび健康分野の発展に寄与しうる有能な人材を育成すること」を目的としています。この目標を達成していくためには、将来、スポーツ科学の高度な専門的指導者を目指す院生自らが、磨き、鍛え、日々努力することが不可欠です。本大学院は、大学を卒業し継続してスポーツ科学の専門的知識・技能の獲得を希望する学生はもちろん、外国人留学生、現在、中学・高校等の現職教員をはじめとし、体育・スポーツおよび健康分野において活躍している指導者の更なるステップアップの実現に向けて、学修ができるように門戸を開いています。

北海道、東北地域において、体育・スポーツ科学や健康科学に関する卓越した教育研究の環境を有する仙台大学大学院に進学して、特色ある教育課程に基づいて、実力豊かな指導教授陣の適切な指導助言の下、存分に研究の基礎的、基本的な能力を鍛えてください。そして、将来、成熟社会が求める高度な専門性を発揮できる人材として多様な体育・スポーツおよび健康分野で活躍することを期待しております。

1. 修了の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

本大学院は、建学の精神および教育理念のもと、多様化・高度化したスポーツについて様々な側面から理論的、実証的あるいは事例的方法によるアプローチを行い、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア及び現代武道の分野における高度な専門的指導者として、その発展に寄与しうる有能な人材を育成することを目的としています。

すなわち、「体育、スポーツおよび健康分野」の当該領域における高度かつ最新の科学的な知識・技能を修得し、併せて学術研究の高度化や国際化、社会との連携、生涯学習への対応にも貢献しうる幅広い能力・識見を身につけた学生に対して、修士「スポーツ科学」の学位を授与します。

本大学院では、この人材育成目標を達成するため、本大学院のアドミッションポリシーに沿って受入れた学生に対して、修了までに次のようなことを修得することを求めています。

- ・本大学院のカリキュラムポリシーのもと、所定の授業科目を履修し修了要件単位数を修得することができること
- ・修士論文（2年コース）、またはリサーチペーパー（1年コース）を作成し、その審査及び試験に合格できること
- ・体育・スポーツ及び健康分野についての専門的知識・技能を総合的に理解し、それらを適切かつ高度に実践・応用する力を身につけることができること
- ・体育・スポーツ及び健康分野の学問が果たすべき役割を理解し、該当研究分野の整備、発展させるために寄与・貢献できる総合的な能力・識見を身につけることができること

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

本大学院では、人材育成目標を達成するため、ディプロマポリシーを達成するために、次のような教育課程を編成しています。

2年コース：

「体育、スポーツおよび健康分野」の高度な専門的指導者として寄与・貢献できる人材を育成するために、専門的知識・技能の修得を支援する「アカデミック支援関連科目」およびキャリアアップ（職能開発）を支援する「キャリア支援関連科目」を両軸とするコースワークの充実を図っています。

2年コースの教育課程は、「コア科目」および「領域科目」に大別されています。

「コア科目」は、必修科目の「スポーツ科学概論（含、研究倫理）」「スポーツ科学指導研究」「情報リテラシー」「キャリアマネジメント特講」および「スポーツ科学特別研究」、そして、選択科目の「スポーツ科学インターンシップ」および「スポーツ科学領域別実習」の7科目から構成されています。これらの科目を履修することにより、高度な専門指導者として身につけておくべきキャリアアップに繋がる諸能力、「体育、スポーツおよび健康分野」の学術的知見に基づき総合的に理解し、自然科学や人文科学の研究法を適切に高度に運用できる能力を幅広く修得することになります。また、この中には、修士論文を計画的に作成できるよう指導を受ける科目も含まれています。

「領域科目」は、8つの領域ごと、文献研究等の講義を通じて最新の知見・理論を修得する「特講」と、実験・実習等の実践を通じた知識・技能の定着を目指す「演習」から構成されています。これらの科目を履修することにより、各自の専門研究領域の学修・研究を深化・発展させるために必要な知識・技能を基礎から応用まで修得することになります。加えて、自分が在籍しない他研究領域の「領域科目」も、「体育、スポーツおよび健康分野」の学術的知見を得るための情報源として大いに期待できるため、その履修を推奨しています。

1年コース：

職場等で自ら抱える専門分野の研究課題を解決する教育研究の場である「1年コース」では、その解決策を内容とする「特定の課題についての研究の成果（リサーチ・ペーパー）」が課されます。そこで在籍中、その作成に多くの時間を費やすこととなります。

1年コースの教育課程は、「コア科目」および「領域科目」に大別されています。

「コア科目」は、必修科目の「スポーツ科学指導研究」、そして、選択科目の「スポーツ科学概論（含、研究倫理）」、「情報リテラシー」および「キャリアマネジメント特講」、「スポーツ科学領域別実習」の5科目から構成されています。これらの科目を履修することにより、更なるキャリアアップに繋がる諸能力、「体育、スポーツおよび健康分野」の学術的知見を総合的に理解し、自然科学や人文科学の研究法を適切に高度に運用できる能力を幅広く修得することになります。

「領域科目」は、下記のとおりです。

- ・「学校体育演習」・「学校体育実践演習」（学校体育領域）
- ・「スポーツプロモーション演習」・「スポーツプロモーション実践演習」（スポーツプロモーション領域）
- ・「健康・体力支援演習」・「健康・体力支援実践演習」（健康・体力支援領域）

これらの科目を履修することにより（必修科目）、職場等で自ら抱える専門分野の研究課題を解決していくことに繋がり、その成果はリサーチペーパーにまとめることにもなります。

また、2年コースの関連研究領域の「領域科目」も、当該領域の学術的知見を得るための情報源として大いに期待できるため、その履修を推奨しています。

2年コースおよび1年コースの教育課程において、主な特色としてはつぎのようなことがあげられます。

開講科目群をグレード化することにより、グレード1は専門領域に関わる基礎的知識・技能を目指す科目群、グレード2は専門領域に関わる応用的知識・技能を目指す科目群、さらに高度なグレード3と、学生が主体的に建設的な履修計画を立案できる手助けとなる試みがなされています。また、討議を通じた課題解決型授業をはじめ学生の能動的な学修を促す教育内容・方法を取り入れるとともに、学習到達度の可視化を図るため、ポートフォリオ、ルーブリック等の教育手法も積極的に取り入れるようにしています。

修士論文（2年コース）、またはリサーチペーパー（1年コース）は、研究計画書の提出に始まり、原則、公開制の予備審査会および本審査会を経て、本大学院が求める基準に達していると判断されると合格することとなりますが、その指導にあたり、学生への手厚い指導をするため複数指導体制を採っています。

大学において、中・高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）、または養護教諭一種普通免許状を取得した者は、所定の規程において定める授業科目群を修得し、修了時に修士（スポーツ科学）の学位を授与されることにより、同・専修普通免許状を取得することもできます。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本大学院では、仙台大学の建学の精神および基本理念のもと、高度の専門的職業等を担うための学究に意欲をもち、将来、指導的な役割を果たしうる資質を有する人材を受け入れます。

<求める学生像>

ディプロマポリシーを達成するために、2年コースおよび1年コースにおける各領域では、以下のような学生を求めます。

2年コース：

〔保健体育科教育領域〕

- ・中・高保健体育教員を志す者
- ・学校教職員としての見識・実践力をより高めたい者

〔現代武道領域〕

- ・「武道」や「安全教育（主に防犯）」に強い関心がある者
- ・大学において、「武道」と「安全教育（主に防犯）」について学修し、その基礎的知識や実践力を有する者
- ・教育機関等において「武道」や「安全教育（主に防犯）」の指導経験があり、専門的知識を有する者

〔スポーツマネジメント領域〕

- ・「スポーツマネジメント」に含まれるスポーツ現象の発展・向上に寄与しようとする意欲を有する者
- ・大学において、「スポーツマネジメント」について学修し、その基礎的知識や実践力を有する者

〔スポーツコーチング領域〕

- ・スポーツコーチング・トレーニング、スポーツ運動学、スポーツバイオメカニクスに対する興味・関心が高く、専門的に深く学ぶ意欲のある者
- ・将来的にスポーツコーチング・トレーニング、スポーツ運動学、スポーツバイオメカニクスを活用したスポーツ指導や教育を実践したいと考えている者
- ・スポーツコーチング・トレーニング、スポーツ運動学、スポーツバイオメカニクスの研究を行いたい者
- ・大学において、スポーツコーチング・トレーニング、スポーツ運動学、スポーツバイオメカニクスについて学修し、その基礎的知識や実践力を有する者

〔スポーツ情報戦略・マスメディア領域〕

- ・「情報」というキーワードを通じてスポーツに貢献する業務に関わることを目指している者
- ・大学において、スポーツ情報を取り扱うための基本的なスキルについて学修し、その基礎的知識や実践力を有する者

〔トレーナー領域〕

- ・将来、健康・スポーツの分野において運動指導等の業務に関わることを目指している者
- ・大学において、「運動・スポーツ」と「生理学」について学修し、その基礎的知識や実践力を有する者

〔運動・スポーツ栄養学領域〕

- ・将来、健康・スポーツの分野において栄養指導、運動指導等の業務に関わることを目指している者
- ・大学において、「運動」と「栄養」について学修し、その基礎的知識や実践力を有する者
- ・「栄養士」の資格を有しており、「管理栄養士」の資格取得を希望する者

〔健康福祉領域〕

- ・将来、主に保健、福祉領域において健康づくり、健康支援の分野の業務に関わることを目指している者
- ・大学において、「健康・スポーツ」と「福祉」について学修し、その基礎的知識や実践力を有する者
- ・養護教諭を志す者

1年コース：

〔学校体育領域〕

- ・学校の現職教員として3年以上の勤務経験を有する者
- ・学校の非常勤教員等として通算5年以上の教職経験を有する者

「スポーツプロモーション領域」

- ・地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、スポーツ行政、スポーツ団体等において、3年以上の実務経験を有する者
- ・一般企業等において通算5年以上の実務経験を有し、生涯スポーツの振興に強い関心と意欲のある者
- ・トップレベル（日本代表等）の競技実績を有する者
- ・スポーツ団体、プロスポーツチーム、企業スポーツチーム等において、コーチやマネジメント、栄養スタッフ等として3年以上の実務経験を有する者
- ・一般企業等において通算5年以上の実務経験を有し、トップスポーツの振興に強い関心と意欲を有する者

「健康・体力支援領域」

- ・運動指導、栄養指導、健康教育等の健康づくりの分野で3年以上の実務経験を有する者
- ・一般企業等において通算5年以上の実務経験を有し、健康・体力支援に強い関心と意欲のある者
- ・医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士、養護教諭などの資格を有する者

なお、本大学院において、「体育・スポーツ及び健康分野」について、より高度な専門的知識や技能を修得するにあたっては、大学までに、英文文献を解読できる程度の語学力、および研究する関連科目の基礎的学力（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って学ぶ態度）を身に付けておくことを望みます。

沿革

- 明治12. 1 初代朴澤三代治、仙台本荒町（現仙台市青葉区一番町二丁目）の地に松操私塾創設
- 明治17. 4 校名を「私立松操学校」と改称
- 明治28.11 朴澤良助、三代治を襲名し、第二代校長に就任
- 大正14. 1 朴澤ひろ、第三代校長に就任
- 大正15. 3 職業学校規程により教則を全面改定し、本科及び師範科を増設し校名を「朴沢松操学校」と改称
- 昭和 6.10 高等師範科を増設し、校名を「朴沢松操女学校」と改称
- 昭和12. 8 朴澤三二（東北大学名誉教授）第四代校長に就任
文部省より高等師範科卒業生に対し、裁縫科中等教員無試験検定認可
- 昭和22. 8 朴澤綾子、第五代校長に就任
- 昭和23. 4 学制改革に伴い学則全部を改め、校名を「朴沢女子高等学校」と改称
- 昭和26. 3 「財団法人朴沢松操女学園」を廃止し、新たに「学校法人朴沢松操女学園」の設置認可
- 昭和42. 3 法人名を「朴沢学園」と改称
- 昭和42. 4 「仙台大学」を開学し、4年生体育学部体育学科（入学定員100名）を開設**
佐野 保（東北大学名誉教授）初代学長に就任
- 昭和43. 2 体育学部体育学科教職課程認定 中学校教諭一種普通免許状（保健体育）
高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
- 昭和44. 9 専門教育棟竣工
- 昭和44.11 加藤 謙次郎 第二代学長に就任
- 昭和48. 8 元村 勲（東北大学名誉教授）第三代学長に就任
- 昭和50. 4 朴澤 一郎 第四代学長に就任
- 昭和52. 4 小室 庄八（宮城教育大学名誉教授）学長事務取扱に就任
- 昭和52. 8 小室 庄八（宮城教育大学名誉教授）第五代学長に就任
- 昭和54. 2 第二体育館竣工
- 昭和54. 6 朴沢学園創立100周年
- 昭和56. 5 テニスクレーコート（5面）竣工
- 昭和57. 1 体育学部体育学科入学定員150名、収容定員600名認可（昭和57年4月）
- 昭和57. 3 室内温水プール竣工
- 昭和60.12 体育学部体育学科入学定員225名認可、併せて期間付入学定員25名認可（昭和61年4月～平成12年3月）
- 昭和61. 4 庄司 定克 学長事務取扱に就任
- 昭和61. 5 第二グラウンド（野球、ラグビー、サッカー場）竣工
- 昭和61. 8 北村 仁（東北大学名誉教授）第六代学長に就任
- 昭和63. 3 講義棟竣工
- 平成 1. 6 第三体育館竣工
- 平成 2. 8 森 富（東北大学名誉教授）第七代学長に就任
- 平成 4. 4 「朴沢女子高等学校」を「明成高等学校」に改称
- 平成 4. 9 管理・研究棟、図書館竣工
- 平成 6. 8 叡野 豊（筑波大学名誉教授）第八代学長に就任
- 平成 6.11 25記念館竣工
- 平成 6.12 体育学部健康福祉学科（入学定員60名、収容定員240名）設置許可、平成7年4月開設**
体育学部体育学科入学定員200名、収容定員800名認可（平成7年4月から）
- 平成 7. 3 体育学部健康福祉学科教職課程認定 中学校教諭一種普通免許状（保健体育）
高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
- 平成 9. 4 仙台大学創立30周年
- 平成 9.12 仙台大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻（修士課程）入学定員9名、収容定員18名設置認可、平成10年4月開設**
- 平成 10. 3 大学院研究棟竣工**
大学院教職課程認定 スポーツ科学専攻 中学校教諭専修免許状（保健体育）
高等学校教諭専修免許状（保健体育）
- 平成10.12 放送大学と単位互換協定締結
- 平成11. 7 期限付入学定員25名の恒常定員化に伴う学則変更認可
体育学部体育学科：入学定員225名、収容定員900名（平成12年4月から）
- 平成11.11 朴沢学園創立120周年、河北文化賞受賞
- 平成11.12 体育学部健康福祉学科編入学定員20名認可
入学定員60名、編入学定員20名（3年次）、収容定員280名（平成12年4月から）
- 平成12. 2 体育学部健康福祉学科教職課程認可 介護福祉コース 養護学校教諭一種免許状
健康福祉コース 養護教諭一種免許状
- 平成12. 9 学都仙台単位互換ネットワークに関する協定及び覚書締結（平成13年4月から）
- 平成 12.12 大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻（修士課程）入学定員15名、収容定員30名認可**
平成13年4月から

- 体育学部健康福祉学科 収容定員の増加に係る学則変更認可
 健康福祉学科 入学定員100名、編入学定員20名（3年次）、収容定員440名
 介護福祉専攻 入学定員80名、収容定員320名
 健康福祉専攻 入学定員20名、編入学定員20名（3年次）、収容定員120名
- 平成13.1 体育学部健康福祉学科教職課程認定
 健康福祉専攻 中学校教諭一種普通免許状（保健体育）
 高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
 養護学校教諭一種普通免許状
 介護福祉専攻 養護コース 養護学校教諭一種普通免許状
 介護福祉専攻 福祉コース 高等学校教諭一種普通免許状（福祉）
- 平成13.5 鹿島メモリアル・クラブハウス竣工
- 平成14.3 大学院教職課程認定 スポーツ科学専攻 保健体育コース 中学校教諭専修免許状（保健体育）
 高等学校教諭専修免許状（保健体育）
 養護コース 養護教諭専修免許状
- 平成14.4 向井 正剛 第九代学長に就任
- 平成14.7 体育学部運動栄養学科（入学定員40名、編入学定員8名（3年次）、収容定員176名）設置認可
 平成15年4月開設
- 平成14.11 35記念館竣工
- 平成14.12 体育学部運動栄養学科教職課程認定 中学校教諭一種普通免許状（保健体育）
 高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
- 平成15.1 厚生労働省より、「運動栄養学科」栄養士養成施設に指定
- 平成16.3 サッカー・ラグビー場竣工
- 平成16.12 体育学部健康福祉学科 専攻廃止に係る学則変更認可
 健康福祉学科 入学定員100名、編入学定員20名（3年次）、収容定員440名
 体育学部運動栄養学科 収容定員の増加に係る学則変更認可
 運動栄養学科 入学定員60名、編入学定員8名（3年次）、収容定員256名
 ハンドボールコート上屋竣工
- 平成17.3 体育学部健康福祉学科教職課程認定 中学校教諭一種普通免許状（保健体育）
 高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
 養護学校教諭一種普通免許状
 養護教諭一種普通免許状
 高等学校教諭一種普通免許状（福祉）
 体育学部運動栄養学科教職課程認定 中学校教諭一種普通免許状（保健体育）
 高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
 栄養教諭二種普通免許状
- 平成17.4 体育学部体育学科・健康福祉学科及び運動栄養学科の教育課程（カリキュラム）改正
- 平成17.12 体育学部体育学科 収容定員の増加に係る学則変更認可
 体育学部体育学科 入学定員250名、編入学定員10名（3年次）、収容定員1,020名認可
 （平成18年4月から）
- 平成18.3 第4体育館竣工
- 平成18.9 体育学部スポーツ情報マスメディア学科（入学定員40名、収容定員160名）設置認可
 平成19年4月開設
- 平成19.4 大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻（修士課程）
 入学定員18名、収容定員36名認可
- 平成19.4 スポーツ情報マスメディア学科教職課程認可 中学校教諭一種普通免許状（保健体育）
 高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
- 平成20.4 朴澤 泰治 第十代学長に就任
- 平成21.4 大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻（修士課程）
 1年コース設置 入学定員23名、収容定員46名認可
- 平成22.3 仙台大学国際交流会館竣工
- 平成22.8 体育学部現代武道学科（入学定員30名、編入学定員10名（3年次）、収容定員140名）設置認可、
 平成23年4月開設
- 平成22.8 体育学部運動栄養学科 収容定員の増加に係る学則変更認可
 運動栄養学科 入学定員80名、編入学定員8名（3年次）、収容定員336名
- 平成23.5 第5体育館竣工
- 平成24.4 仙台大学創立45周年
- 平成25.5 震災復興記念プール竣工
- 平成25.9 明仙フィールド川平竣工
- 平成26.4 阿部芳吉（仙台大学 副学長）第十一代学長に就任
- 平成27.8 仙台大学船岡南テニスコート竣工
- 平成28.1 ラーニングコモンズ棟竣工
- 平成28.8 体育学部子ども運動教育学科（入学定員40名、収容定員160名）設置認可、平成29年4月開設
- 平成29.4 仙台大学創立50周年

2年コース

仙台大学大学院修士課程2年コースでは、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア及び現代武道に関する科学的知識・技能、ならびに研究能力を修得し、それぞれの分野における高度な専門的職業を担う人材を育成します。

この目的をより具現化するため、8領域を設け職域や資格取得に直結した授業科目と履修モデルを提供し、学生が自ら主体的に履修計画を設計する方法になっています。

領域

- ① 保健体育科教育領域
- ② 現代武道領域
- ③ スポーツマネジメント領域
- ④ スポーツコーチング領域
- ⑤ スポーツ情報戦略・マスメディア領域
- ⑥ トレーナー領域
- ⑦ 運動・スポーツ栄養学領域
- ⑧ 健康福祉領域

教育課程の特徴

1. コア科目（必修12単位、選択5単位）

〈必修コア科目〉

スポーツ科学概論(含、研究理論)

スポーツ科学指導研究

情報リテラシー

キャリアマネジメント特講

：コミュニケーションスキルや対人関係スキル、問題解決スキルなどの獲得とその指導方法を学びます。

スポーツ科学特別研究

〈選択コア科目〉

スポーツ科学インターンシップ実習

：学生の希望する職場での約15日間の実習。

スポーツ科学領域別実習

2. 領域科目

所属する領域科目から各領域に定められた単位を修得します。

3. 授業科目にグレードを導入

授業科目のレベルを示すグレードを設けています。グレード1から順に履修することによって段階的に学べます。

4. 修士論文の複数指導体制

修士論文の指導は複数教員による指導体制を採り、履修モデルの設計やインターンシップ先の決定ならびに調整などにも関わり学生への手厚い指導を行っています。

資格 ※教職課程再課程認定申請中（平成31年度教職課程再課程認定予定）

ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

○中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）、養護教諭専修免許状 取得可能。

入試日程：【前期入試】 平成30年11月10日（土）

【後期入試】 平成31年2月9日（土）

1年コース

平成21年度から、仙台大学大学院では修士課程1年コースを設置しました。このコースでは、学校体育領域など下記3領域の実務経験者を対象とし、各領域における最新の知識技術を修得することによって、さらに高度な専門的職業人として活躍できる人材を育成します。

領域および入学要件

学校体育領域

- (1) 学校の現職教員として3年以上の勤務経験を有する者。
- (2) 学校の非常勤教員等として通算5年以上の教職経験を有する者。

スポーツ・プロモーション領域

- (1) 地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、スポーツ行政、スポーツ団体等において、3年以上の実務経験を有する者。
- (2) 一般企業等において通算5年以上の実務経験を有し、生涯スポーツの振興に強い関心と意欲のある者。
- (3) トップレベル（日本代表等）の競技実績を有する者。
- (4) スポーツ団体、プロスポーツチーム、企業スポーツチーム等において、コーチやマネージャー、栄養スタッフ等として3年以上の実務経験を有する者。
- (5) 一般企業等において通算5年以上の実務経験を有し、トップスポーツの振興に強い関心と意欲のある者。

健康・体力支援領域

- (1) 運動指導、栄養指導、健康教育等の健康づくりの分野で3年以上の実務経験を有する者。
- (2) 一般企業等において通算5年以上の実務経験を有し、健康・体力支援に強い関心と意欲のある者。
- (3) 医師・保健師・看護師・理学療法士・作業療法士・栄養士・養護教諭などの資格を有する者。

教育課程の特徴

1. 特定の課題に関する研究

修士論文に代え、実践的研究を通し、自らの抱える課題を究明します。

2. 領域必修科目（14単位）

各領域演習：「特定の課題に関する研究」の指導を行います。

各領域実践演習：「課題研究」を行う上で参考となる先進現場等における演習。

スポーツ科学指導研究：スポーツ科学の知識・技能を教授するための適切な内容・水準・方法を実践を通して学びます。

3. 共通科目（16単位以上）

共通科目から16単位以上修得します。

4. 開講科目

一部の開講科目については、土・日及び集中講義で受講可能となっています。

資格 ※教職課程再課程認定申請中（平成31年度教職課程再課程認定予定）

ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

○中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）、養護教諭専修免許状 取得可能。

入試日程：【前期入試】 平成30年11月10日（土）

【後期入試】 平成31年2月9日（土）

仙台大学大学院の特徴

1. 広い視野に立ちスポーツ科学の発展を担える人材の育成に努めています。

スポーツ科学各分野(体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア及び現代武道)に関する学術理論、技能、能力を修得し、それぞれの分野での実践力の向上を目指しており、複数教員による修士論文指導などサポート体制を充実させています。非常勤講師には斯界の専門家を招聘し実践的な講義や演習を導入しています。2年コースでは、キャリア支援科目(職能開発)、アカデミック支援科目(専門的知識・技能の習得)の組み合わせによるコースワークの充実をはかり、1年コースでは、職場等で自ら抱える専門分野の課題を解決するためのリサーチペーパー(修士論文)の指導に力を注いでいます。

2. 社会人、現職教員のリカレント教育の拠点としての役割を果たします。

働きながら学びたい社会人や現職教員のリカレント教育にも積極的です。大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に基づき、昼間、夜間(17時50分以降)、昼夜間共通(土曜・日曜)開講という3構成の時間割で、昼間と夜間は同じ授業科目を配置し都合のよい時間に講義を受けることができ、集中講義は土曜、日曜日や夏期休暇中等に開講しています。平成24年度からは、在籍期間を延長できる長期履修制度をスタートさせ、さらに学びやすい大学院となっています。

3. 中学校・高等学校の保健体育と養護教諭の専修免許の取得が可能です。

大学において、教育職員免許法で定める中学校および高等学校教諭一種普通免許状(保健体育)または養護教諭一種普通免許状を取得した者は、教育職員専修免許状取得のための教科(養護)及び教職に関する科目群の授業科目の履修で24単位以上の単位を修得し、修了時に修士(スポーツ科学)の学位を授与されることにより可能となります。

※教職課程再課程認定申請中(平成31年度教職課程再課程認定予定)

ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

(注) 長期履修学生制度

長期履修学生制度とは、学生が職業を有している等の事情により標準修業年限(修士課程1年コース1年、2年コース2年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、その計画的履修を認める制度です。

<対象者>

職業を有している方または長期履修が必要な相当の事情を有する方が対象となります。

- (1) 職業等を有している方とは、正規に雇用されている方に限りませんが、主として当該収入により生計を維持していることを要件とします。
- (2) 長期履修が必要な相当の事情とは、育児、介護への従事等により学習又は研究時間の制約を受けることが明らかなことを要件とします。

<申請方法>

長期履修学生を希望する場合、長期履修学生申請書を他の入学手続書類とともに大学院事務室に提出するものとします。

<入学金・授業料等>

入学金と学生傷害保険料は入学時に一括納付し、その他標準修業年限に納入する授業料、教具教材費、施設費(以下「授業料等」という。)の総額を、長期履修期間で均等分割して年度ごと4月末日まで納付していただきます。

なお、授業料等については、4月および10月の2期に分割して納付することができます。

<長期履修期間>

長期履修期間とは、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修することを認められる期間をいい、1年コースは2年以内、2年コースは4年以内とし、1年単位で長期履修期間を定めることができます。なお、長期履修学生としての在学期間は、長期履修期間に2年を加えた期間を超えることができません。

- (1) 休学期間は長期履修期間には含まれません。
- (2) 在学期間内に修了することができない場合には除籍の対象となります。

仙台大学大学院スポーツ科学研究科の課程

本大学院では、修士課程(1・2年コース)の他、科目等履修生、研究生の制度を設けています。
また、海外大学院への留学などにより、広い範囲での研究や交流の道も開かれています。

修士課程

《受験資格》

原則として、大学を卒業した者、大学卒業見込みの者、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者が受験できます。なお、1年コースはさらに入学要件に該当する者となっていますので、詳細について、必ず入試要項でご確認ください。

《修了要件》

大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、修士論文審査および最終試験に合格しなければなりません。なお、1年コースにおいては、1年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、リサーチ・ペーパー審査および最終試験に合格しなければなりません。

科目等履修生

本大学院では、当該科目の教育に支障がない限り、選考のうえ、大学院科目履修生として、複数の科目を履修することができます。ただし、履修できる科目は、3科目までとなります。

- (1) 入学検定料……10,000円 (3) 授業料(1単位)……10,000円
(2) 入学金………20,000円

研究生

本大学院において、特定の専門事項についての研究を志望する者で、学生の教育及び研究に支障がない限り、選考のうえ、許可します。

ただし、入学資格は、大学院修士課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とします。

開講科目一覧(平成30年度)

※印が付いている授業科目は集中講義です。

区 分		授 業 科 目	単位数	2年コース	1年コース	グレード	
				選択・必修	選択・必修		
コ ア 科 目		スポーツ科学概論(含、研究倫理)	2	各領域 12 単位 必修	選択	1	
		スポーツ科学指導研究	2		} 各領域必修	1	
		情報リテラシー	2			選択	1~3
		※キャリアマネジメント特講	2		選択	キャリア	
		スポーツ科学特別研究	4		}	3	
		スポーツ科学インターンシップ	4			選択	キャリア
		スポーツ科学領域別実習	1			選択	2・3
領域科目 (1年コース)	学校体育	学校体育演習	4	}	領域必修	1~3	
		学校体育実践演習	8			1~3	
	スポーツプロモーション	スポーツプロモーション演習	4	}	領域必修	1~3	
		スポーツプロモーション実践演習	8			1~3	
	健康・体力支援	健康・体力支援演習	4	}	領域必修	1~3	
		健康・体力支援実践演習	8			1~3	

領域科目 (2年コース) / 共通科目 (1年コース)	領域	保健体育科教育	教育・学校ガバナンス論特講	2	} 領域必修 領域 4 単位以上 選択必修	選択	1
			保健体育科教育学特講	2		選択	〔1〕
			保健体育科教育学演習	2		選択	
			部活動指導論特講	2		選択	1
			スポーツ心理学特講	2		選択	1
			授業実践演習	2		選択	2
		現代武道	犯罪学特講	2	} 領域必修 但しス ポーツコーチング 領域の「ス ポーツ コーチング論特 講」も領域必修	選択	1
			武道指導法演習	2		選択	2
		スポーツマネジメント	※スポーツマネジメント論特講	2	} 領域必修 領域 4 単位以上 選択必修	選択	〔1〕
			スポーツマネジメント論演習	2		選択	
地域スポーツ論特講	2		選択	1			
※野外・レクリエーション論	2		選択	2			
スポーツ史特講	2		選択	1			
スポーツセキュリティー論演習	2		選択	2			
スポーツコーチング	スポーツコーチング論特講	2	} 領域必修 領域 4 単位以上 選択必修	選択	〔1〕		
	スポーツコーチング論演習	2		選択			
	スポーツ運動学特講	2		選択	〔1〕		
	スポーツ発生指導論演習	2		選択			
	スポーツバイオメカニクス特講	2		選択	〔1〕		
	スポーツバイオメカニクス演習	2		選択			
	トップスポーツコーチング演習	2		選択			
スポーツ情報戦略・ マスメディア	スポーツ情報マスメディア特講	2	} 領域必修 領域 2 単位以上 選択必修	選択	1		
	スポーツマスメディア論演習	2		選択	2		
	スポーツ情報戦略論演習	2		選択	2		
	※トップスポーツ情報戦略論	2		選択	3		
トレーナー	体力科学特講	2	} 領域必修 領域 2 単位以上 選択必修	選択	1		
	トレーニング科学演習	2		選択	2		
	運動環境科学演習	2		選択	2		
	アスレティックトレーニング演習	2		選択	2		
運動・スポーツ栄養学	運動・スポーツ栄養学特講	2	} 領域必修	選択	1		
	運動・スポーツ栄養学演習	2		選択	2		
健康福祉	健康福祉論特講	2	} 領域必修 領域 4 単位以上 選択必修	選択	1		
	運動・スポーツ医科学論	2		選択	2		
	※健康支援・介護予防演習	2		選択	2		
	※健康医療政策論	2		選択	2		
	※養護教育学論	2		選択	2		
2年コース履修方法			<p>コア科目の必修 12 単位及び領域科目から所属する領域ごとに指定した単位を履修する。30 単位に満たない単位については、コア科目の選択科目を含め、所属する領域にかかわらず全ての授業科目から選択し、計 30 単位以上を履修する。なお、所属する領域以外の領域科目は全て選択科目とする。</p> <p>領域科目のグレードについては、該当する領域のグレード 1 から順に履修済みでなければ、その領域のグレード 2 以上を履修することはできない。</p> <p>但し、括弧がついているグレード 2 の領域科目を履修する場合には、グレード 1 の領域科目は、括弧の組み合わせで履修しなければならない。</p>				
1年コース履修方法			<p>コア科目の必修 2 単位、領域科目から所属する領域の必修 12 単位、コア科目の選択科目と共通科目から 16 単位以上選択し、計 30 単位以上を履修する。</p>				

講義概要 (平成30年度簡略版)

●授業科目名：スポーツ科学概論 (含、研究倫理) ●担当教員：藤井久雄/永田秀隆/荒井龍弥/宮西智久/粟木一博/
小池和幸/内丸 仁/早川公康/田中智仁

授業概要

2年コースの8領域 (保健体育科教育・現代武道・スポーツマネジメント・スポーツコーチング・スポーツ情報戦略マスメディア・トレーナー・運動スポーツ栄養・健康福祉) について、各分野の最新の学術的動向等について講義する。

科学研究の健全な発展のため、研究活動における“誠実な研究者の心得 (研究倫理)”は大切となる。大学院での研究活動に先駆け、その要点について解説する。

●授業科目名：スポーツ科学指導研究

●担当教員：藤井久雄

授業概要

本大学院の教育目標は、スポーツ・体育、健康分野における高度な専門的指導者として、その発展に寄与しうる有能な人材を育成することにある。そこで、ここでは、現場において、スポーツ科学の知識・技能を教授するための適切な内容・水準・方法 (教授技法) を、特に実践を通して獲得することを目指す。なお、本授業は、1・2年コース合同で運営されることも大きな特色である。1年コースの学生にとっては、これまで現場で実践してきた教授技法のステップアップに、一方2年コースの学生にとっては、その教授を体験することにより良き鑑となることを期待している。

●授業科目名：情報リテラシー

●担当教員：粟木一博/荒井龍弥

授業概要

先行研究・調査・実験等を通じ得られる情報は得てして大量なものとなる。これらの情報はそのままでは有効なものとはなりえない。必要に応じ、取捨選択・加工していくことが必要である。本講では情報リテラシーのうち、とくにデータの加工・読み取り・表現に焦点をあて、受講者の基本的スキルの向上を目指す。

●授業科目名：キャリアマネジメント特講

●担当教員：奥田寛司 (非常勤)

授業概要

スポーツ・健康関連分野に求められる高度な職能開発のための有効な理念・目的を明確化し、目的・目標設定の仕方、長期的および短期的な学修・生活設計の仕方、そのための実践的な理論や方法について教授研究する。

●授業科目名：教育・学校ガバナンス特論

●担当教員：山谷幸司／金井里弥／大内悦夫／
青沼一民／三谷高史

授業概要

教育は教育を受ける人の成長を目指して行われる。例えば学校では教員は生徒の成長発達を願い、さまざまな教育活動を行う。このために教員と生徒の関係性の構築および発展は欠かせない。しかしながら当事者のみならず、関係性に影響する要因群は多数存在する。本講ではこれらの要因群のうち、例えば教育および学校に関わる法規的側面、国際的側面、地域的側面、持続可能な環境の教育といった事項について検討し、理解を深めようとするものである。

●授業科目名：保健体育科教育学特講

●担当教員：高橋 徹／小濱 明／郡山孝幸／
入澤裕樹

授業概要

1) 保健科教育および体育科教育の研究領域とそれらの課題および解決方法について歴史的に検討する。2) 保健授業の診断、処方、方策について検討する。3) 体育授業の授業づくりの考え方、進め方について検討する。4) すぐれた保健授業実践および体育授業実践について検討する。

●授業科目名：保健体育科教育学演習

●担当教員：高橋 徹／小濱 明／郡山孝幸／
入澤裕樹／井上雅勝

授業概要

保健体育科教育学の領域における研究遂行力を向上させるために、保健科教育および体育科教育に関する基本的な文献を読み解き、まとめ、深く省察する。

●授業科目名：部活動指導論特論

●担当教員：井上雅勝／末永精悦／荒井龍弥

授業概要

今日の学校教育において大きな役割を果たしている部活動について、その意義や役割を理解するとともに、部活動を取り巻く諸課題の改善策や、よりよい部活動の運営や指導に活用できる実践的な取り組み方等について解説していく。

●授業科目名：スポーツ心理学特講

●担当教員：栗木一博／菊地直子

授業概要

メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の中で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツにおける心理学的な諸問題の具体的な事例や研究事例を取り上げそれについて解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツ指導のために応用する方法について解説する。

●授業科目名：授業実践演習

●担当教員：荒井龍弥・菊地 博・久能和夫・針生 弘

授業概要

実際に学校で行われている授業を題材に、担当教員の指導助言のもと履修者自らが授業実践研究を行うことが中心となる。授業の計画・準備・実施・振り返りという、教師にとっての本来の教育評価の流れを踏まえ、各々の段階でどのようなことがらが問題となるか、検討の観点も含めて学究を深める。

●授業科目名：犯罪学特講

●担当教員：田中智仁

授業概要

犯罪の原因および犯罪が起りやすい機会を網羅的に解説する。犯罪学は生物学、社会学、心理学等の総合体系であるが、個々の学問の予備知識が無くても理解できるよう順々にテーマを展開する。また、学校教育現場で発生する非行、いじめ、校内暴力、性的嫌がらせ、校内侵入事案などの教育問題についても犯罪学の見地から解説する。

●授業科目名：武道指導法演習

●担当教員：齋藤浩二／南條充寿

授業概要

武道（柔道・剣道）の初心者指導方法を取り上げて、技術の指導構成を基にした内容を実践的に展開していく。

●授業科目名：スポーツマネジメント論特講

●担当教員：柳沢和雄（非常勤）

授業概要

学校、地域、公共・商業スポーツ施設、プロスポーツといった各領域におけるスポーツ経営現象について、その基礎となる考え方や望ましい在り方等について検討する。

●授業科目名：スポーツマネジメント論演習

●担当教員：永田秀隆／弓田恵里香

授業概要

学校、地域、公共・民間スポーツ施設、プロスポーツといった各領域における体育・スポーツ経営、スポーツ行財政・政策、そしてスポーツマネジメントにおけるスポーツプロダクト、スポーツ消費者、スポーツ観戦者、スポーツ参加者に纏わる文献・資料を収集し、主としてそこでの研究の方法論について検討する。

●授業科目名：地域スポーツ論特講

●担当教員：丸山富雄（非常勤）

授業概要

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、現在、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。講義では、わが国の地域の現状および地域の活性化の方法を解説した後、総合型地域スポーツクラブやスポーツイベントの意義や課題について解説する。

●授業科目名：野外・レクリエーション論

●担当教員：仲野隆士／岡田成弘／飯田 稔（非常勤）

授業概要

この分野における基礎的な諸理論の解説の後、関連する先行研究や文献などを検討する。野外教育やレクリエーションについて理解を深める。また、野外スポーツや野外教育を様々なデータや事例を基に深く学習する。

●授業科目名：スポーツ史特講

●担当教員：藪 耕太郎

授業概要

本講義の目的は、「歴史」のコンテキストにおいて、広義の意味のスポーツのありようを批判的に検討することにある。どのような役割や意味を担ってスポーツは歴史に登場したのか、各時代・場所においてスポーツという文化を成立させた土壌とはなにか、いかにスポーツを通じて歴史を読み取ることができるか、そしてスポーツの歴史は「いま・ここ」といかなる関係を切り結ぶのか、といった点を歴史社会的に考察する。

●授業科目名：スポーツセキュリティ論演習

●担当教員：田中智仁

授業概要

大型のスポーツイベントにおいて実施される警備に着目し、その歴史、法制度、事例等を体系的に学ぶ。その上で、スポーツイベントのセキュリティのあり方を考える。授業は演習形式であり、受講生の発表および発言を尊重する。ただし、警備に関する予備知識がない受講生も含まれることを想定し、教員が必要に応じて解説しながら授業を進行する。

●授業科目名：スポーツコーチング論特講

●担当教員：森本吉謙

授業概要

スポーツ指導者の実際的な機能と役割は、選手の競技力向上を目的とした助言や介助的な行為といった直接的なコーチングに留まらず、スポーツ組織のマネジメントやトレーニング計画の立案、管理など多様性を持つものとなる。本講義では、そうした全体構造を踏まえて、コーチングの実践的理論について講述する。

●授業科目名：スポーツコーチング論演習

●担当教員：森本吉謙

授業概要

スポーツ指導者が選手育成あるいは組織マネジメントを遂行する際に直面する諸問題（課題）に対して、如何にして選手あるいは組織をより望ましい方法へと導くべきかについて、また、指導計画が現実に機能するのか、そうでない場合にはどのように計画を修正、変更していくべきか議論していく。

●授業科目名：スポーツ運動学特講

●担当教員：川口鉄二

授業概要

体育教師やスポーツ指導者に必須の専門領域について考える。人間の運動の見方の両極となるモルフォロジー的認識と自然科学的認識とは、具体的にどのような実践上の問題を引き起こしてしまうのかについて、いくつかの例証をもとに解説する。能動的に身体知の形成を育むための指導がどのようにして可能なのかを、促発コーチング論原論として解説していく。

●授業科目名：スポーツ発生指導論演習

●担当教員：川口鉄二

授業概要

「スポーツ運動学」の理解を踏まえ、運動指導の際に「コツ」や「カン」を的確に捉え、運動学習者の意識の向け方を確認し、その際の実施感覚に共感するための方法論を具体的学習（実習）体験を通しながら理解していく。その際に動感を伝えるための支援となる効果的な呈示方法論についても解説していく。

●授業科目名：スポーツバイオメカニクス特講

●担当教員：宮西智久／門野洋介／柴山一仁

授業概要

スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力（外力と内力）が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講では、学部で学習したスポーツバイオメカニクスの基礎事項を復習すると同時に、力学的な力がわれわれのスポーツや身体運動に及ぼす影響を、具体的な例を挙げて発展的に考証する。コラム的にスポーツバイオメカニクス研究の最新情報を紹介する。受講生の理解度に応じて授業を進める。

●授業科目名：スポーツバイオメカニクス演習

●担当教員：宮西智久／門野洋介／柴山一仁

授業概要

スポーツバイオメカニクスにおける各種研究法の測定原理について学習した後、実験を通してデータ収集・解析・処理法について学ぶ。

●授業科目名：トップスポーツコーチング演習 ●担当教員：南條充寿／阿部 肇／鈴木良太

授業概要

①指定されたトップレベルのコーチング現場へ指導者として体験的参加する機会を提供し、（受講者が）競技者側のニーズや課題などについて学んだことをテーマに、コーチングの本質や最新の情報を論述する。②専門分野と異なった競技のコーチング体験機会を提供し、（受講者が）自らのコーチング能力向上に必要な考え方や情報、方法等を分析的に解説する。（学習者同士のディスカッションの中から自ら発見することを重要視する）

●授業科目名：スポーツ情報マスメディア特講 ●担当教員：齋藤 博／栗木一博／佐々木鉄男／石丸出穂

授業概要

高度な情報化社会とされる今日、われわれを取り巻く情報はその形態や活用の方法において多岐にわたっている。スポーツを取り巻く環境も例外ではない。競技力向上の現場をはじめ、スポーツが社会に強い影響を及ぼしている背景には情報の存在がある。本講義においては、スポーツにおける情報戦略活動で用いられる情報およびメディアが伝える情報にはどのようなものがあり、それがどのように用いられているのかを学ぶ。さらに、それらの収集から発信に至るまでの過程を理解する。

●授業科目名：スポーツ・マスメディア論演習 ●担当教員：齋藤 博・佐々木鉄男

授業概要

スポーツメディアに限らずメディア表現の出発点は、対象との出会いとその対象が持つ情報の獲得である。情報の獲得には「観察、データ収集、調査、分析」など様々あるが、当事者に直接話を聞き、問題の所在や情報を持つ人の考え方をすることも重要な方法である。これがインタビューである。インタビューとは単に話を聞くことではない。対話を通しいかに問題点と周辺情報を浮き彫りにするかということである。この科目ではインタビューを通し情報を得て、情報を獲得することを学ぶ。

●授業科目名：スポーツ情報戦略論演習 ●担当教員：栗木一博／石丸出穂

授業概要

スポーツにおいて競技力を向上させるためには、関連する多様な情報を収集・取捨選択し、それを有用なものに加工・編集する能力が極めて重要である。特に情報を戦略的に利用することは志向性の高い目標を持ち、明確な意図のもとにそれらの情報を構成し、構成された内容を効果的に伝達することが目指されなければならない。本講義ではスポーツ情報戦略活動の本質を討議するとともに、実際に活動を体験する。

●授業科目名：トップスポーツ情報戦略論 ●担当教員：浅川 伸(非常勤)／井上規之(非常勤)

授業概要

トップスポーツのコーチングや競技力向上を目的とする組織の意思決定において、情報を戦略的かつ効果的に活用することは、成果の創出において不可欠な営みである。本構では、情報戦略活動が必要とされる背景やニーズを歴史から紐解くとともに、実際の情報戦略活動において求められる人材の役割や資質、能力について学ぶ。

またスポーツ以外の諸領域における情報戦略活動についても、その理論や事例を扱いながら、情報戦略活動を行なう上での原理原則や高度なスキルについて深く検討する。

●授業科目名：体力科学特講

●担当教員：鈴木省三／高橋弘彦／内丸 仁／
竹村英和／小田桂吾

授業概要

本科目はスポーツトレーナー領域の基盤科目（グレード1）であり、当領域の発展科目（グレード2；トレーニング科学演習・運動環境科学演習・アスレティックトレーニング演習）につなげる位置づけのもと、スポーツ生理学やスポーツ医学を含めた体力科学に関する基礎的事項について解説する。

●授業科目名：トレーニング科学演習

●担当教員：鈴木省三／竹村英和

授業概要

適切なトレーニングプログラムは、トレーニングの原理・原則の応用に基づいて、プログラムデザインと呼ばれる手順を踏んで構築される。本演習では、トレーニングの原理・原則をふまえたトレーニングプログラムの構築方法について、最近の研究結果や具体例を基に討論・解説する。

●授業科目名：運動環境科学演習

●担当教員：高橋弘彦／内丸 仁

授業概要

物理的環境要因が運動時の生理的反応に及ぼす影響について講述するとともに、熱中症、低体温症、高山病および酸素中毒などの事故事例とその要因について解説する。また、人工気象室、常圧低・高酸素環境室および高酸素カプセルにて各種環境条件下での運動などを体験しながら、その生理的反応について計測・理解し、物理的環境要因の影響に関する知識を深める。

●授業科目名：アスレティックトレーニング演習 ●担当教員：小田桂吾

授業概要

スポーツ現場で競技者の健康管理に必要な傷害および疾病の基礎情報を講義する。さらに、疫学研究および文献を通してスポーツ現場に必要な健康管理に関する情報を把握・検証し、実験・実践を通して必要な改善および解決、また予防方法に対する知識を深める。

●授業科目名：運動・スポーツ栄養学特講

●担当教員：藤井久雄／長橋雅人／早川公康

授業概要

健康増進や競技力向上の現場において、運動・スポーツと栄養の指導に役立つ専門的事項について説明する。

●授業科目名：運動・スポーツ栄養学演習

●担当教員：藤井久雄／長橋雅人／早川公康

授業概要

健康増進や競技力向上の現場において、運動・スポーツと栄養の指導に役立つ専門的事項について、種々の演習を行う。

●授業科目名：健康福祉論特講

●担当教員：橋本 実／小松正子／小澤輝高／大山さく子／小池和幸／関矢貴秋／笠原岳人

授業概要

健康福祉の考え方と実際について医療、福祉、介護、リハビリテーション、健康づくりなどの側面から基礎理論を講義する。

●授業科目名：運動・スポーツ医科学特講

●担当教員：橋本 実／柴原茂樹

授業概要

健康を維持増進には、運動・スポーツは欠くことができない。生活習慣病には、運動の効果が高いことが知られており、メタボリック・シンドロームにも有効なことで特定検診も始まった。高齢者に多い整形外科領域の疾患にも運動は効果が高い。これらのことを踏まえ健康づくり、福祉、介護、教育の各分野で活用できる先行研究や基礎概念等について解説する。また、この分野における状況や課題について最新事例や調査を基に講義する。

●授業科目名：健康支援・介護予防演習

●担当教員：笠原岳人／大淵修一（非常勤）

授業概要

現在のわが国における生活習慣病予防や介護予防の現状を踏まえ、具体的な事例を取り上げプログラム論、マネジメント論、組織論など総合的に解説し、課題や支援方法等を演習をとおして論議する。

●授業科目名：健康医療政策論

●担当教員：小室史恵（非常勤）

授業概要

わが国の過去から現在に至るまでの医療、福祉に関わる制度及び行財政について具体的な事例をあげて解説する。行財政から健康支援事業の実施までの過程や構造、展開方法を解説し、課題や理想を追求する。

●授業科目名：養護教育学論

●担当教員：鹿野裕美(非常勤) / 菱沼ゆう(非常勤)

授業概要

養護教諭は学校教育法第37条において「養護をつかさどる」と定められた教育職員であり、「学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育と健康管理によって、子どもの発育・発達の支援を行う特別な免許を持つ教育職員」と定義されている。平成20年中教審答申では、保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動と5つの役割についても提示されている。これらの前提をふまえ、本授業においては、養護教諭の専門性を支える理論と技術の学問体系である「養護学」を概観するとともに、養護教諭の実践から固有の理論を導き出す「養護教育学」の内容および方法を理解し、もって、これからの学校教育活動における養護教諭の役割と養護実践の方策について考究する。

大学院担当教員と専門分野（平成30年度）

〈保健体育科教育領域〉

氏名	職位	最終学歴	学位等	現在の研究内容等
やま たに こう じ 山 谷 幸 司	教 授	東北大学大学院 教育学研究科 博士課程	教育学修士	近代日本中等教育史研究、学校沿革史の書誌的研究
こ はま あきら 小 濱 明	教 授	東北大学大学院 博士課程	博 士 (学術)	日本保健科教育学会（理事）、日本体育学会（会員）、保健教材研究会（会員）
あら い たつ や 荒 井 龍 弥	教 授	東北大学大学院 教育学研究科 博士課程	教育学修士	教授学習過程心理学を専門とする。 日本教授学習心理学会理事
おお うち えつ お 大 内 悦 夫	教 授	宮城教育大学 特別数学科	教育学士	学校経営、授業指導法
く のう かず お 久 能 和 夫	教 授	宮城教育大学 教育学部	教育学士	学校経営、道德教育
いの うえ まさ かつ 井 上 雅 勝	教 授	上越教育大学大学院 学校教育研究科	体育学修士	学校経営、体育科教育、リーダーシップ論
あお ぬま かず と 青 沼 一 民	教 授	日本大学 文理学部史学科	文 学 士	学校経営、問題行動、学校教育相談、学校危機管理
きく ち ひろし 菊 地 博	教 授	宮城教育大学 教育学部	教育学士	学校経営、英語教育、生徒指導
こおり やま たか ゆき 郡 山 孝 幸	教 授	宮城教育大学 教育学部	教育学士	保健体育科教育、特に全ての児童生徒が楽しく取り組むための指導法に関する研究 宮城県スポーツ少年団常任委員長
すえ なが せい えつ 末 永 精 悦	教 授	宮城教育大学 教育学部	教育学士	学校経営、国語教育、授業指導法

氏名	職位	最終学歴	学位	現在の研究内容等
針 生 弘 はりゅう ひろし	教授	宮城教育大学 教育学部	教育学士	学校経営、生活科・社会科指導法
菊 地 直 子 きくち なおこ	教授	東北大学大学院 教育学研究科 博士課程前期修了	教育学修士	スポーツアスリートの心理的諸問題に対する臨床的サポートに関する研究
金 井 里 弥 かない さとみ	講師	東北大学大学院 教育学研究科 博士課程	修士 (教育学)	シンガポールの学校教育における宗教理解教育の理念と実態の検証 シンガポールにおける教員の養成及び評価の制度分析
高 橋 徹 たかはし とおる	講師	国士館大学大学院 スポーツ・システム研究科 博士後期課程	博士 (体育科学)	専門：体育哲学、スポーツ哲学 テーマ：①学校体育の存在意義に関する原理的研究 ②スポーツ経験の教育的価値に関する研究
入 澤 裕 樹 いりさわ ゆうき	講師	筑波大学大学院 体育科学研究科 修士課程	修士 (スポーツ科学)	ベースボール型種目の教材に関する研究 保健科教育の教材に関する研究
三 谷 高 史 みたに たかし	講師	一橋大学大学院 社会学研究科 総合社会科学専攻 博士後期課程	修士 (社会学)	専門：環境教育論（教育学、社会学） テーマ：1960-80年代の英国都市環境教育運動、戦後日本の公害教育運動 戦後日本の「地域と教育」論

〈現代武道領域〉

氏名	職位	最終学歴	学位等	現在の研究内容等
斎 藤 浩 二 さいとう こうじ	教授	日本体育大学	体育学士	武道（剣道）を専門とする。 学校体育における剣道の指導法に関する研究
田 中 智 仁 たなか ともひと	准教授	東洋大学大学院 社会学研究科社会学専攻 博士後期課程修了	博士 (社会学)	1.犯罪社会学および環境犯罪学に依拠した防犯理論の研究 2.警備業の社会学的研究 3.メディアにおける性的および暴力的表現の研究 ※日本犯罪社会学会 常任理事 ※日本社会病理学会 理事

〈スポーツマネジメント領域〉

氏名	職位	最終学歴	学位等	現在の研究内容等
仲 野 隆 士 なかの たかし	教授	中京大学大学院 体育科学研究科	体育学修士	スポーツ社会学、レジャーレクリエーション学を専門とし、日本生涯スポーツ学会理事、宮城県レクリエーション協会副会長、日本体育学会・体育学研究編集委員、スペシャルオリンピックスアジア太平洋地区スポーツ委員を歴任する。

氏名	職位	最終学歴	学位	現在の研究内容等
なが た ひで たか 永 田 秀 隆	教授	筑波大学大学院 体育研究科	体育学修士	体育・スポーツ経営学を専門とし、研究分野はスポーツ組織、経営資源、地域スポーツ振興に関する研究。共著として『スポーツ経営学』『テキスト体育・スポーツ経営学』等がある。日本体育・スポーツ経営学会理事
やぶ 藪 こう たろう 耕 太郎	准教授	立命館大学大学院 社会学研究科 博士後期課程	博士 (社会学)	近代日本の武道文化に関する社会史的探究
おか だ まさ ひろ 岡 田 成 弘	講師	筑波大学大学院 体育科学研究科 修士課程	修士 (体育学)	専門:野外運動、野外教育、冒険教育、環境教育 研究テーマ:キャンプや自然体験活動の効果に関する研究 参加者の成長につながった要因の研究 キャンプや自然体験活動における「体験」に着目した研究
ゆみ た えり か 弓 田 恵里香	講師	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科	博士 (スポーツ科学)	スポーツマネジメント、特にスポーツマーケティングを専門とし、修士論文と博士論文はスポーツツーリズムをテーマに取り組んだ。 日本スポーツマネジメント学会、日本観光研究学会など

〈スポーツコーチング領域〉

氏名	職位	最終学歴	学位等	現在の研究内容等
かわ ぐち てつ じ 川 口 鉄 二	教授	筑波大学大学院 体育科学研究科	体育学修士	スポーツ運動学、コーチ学を専門とする。 日本スポーツ運動学会理事長、運動伝承研究会幹事、県体操競技男子強化部長
みや にし とも ひさ 宮 西 智 久	教授	筑波大学大学院 体育科学研究科 博士課程	博士 (体育科学)	スポーツバイオメカニクスを専門とし、特に野球の投打動作に関する研究に従事。 日本体育学会、日本バイオメカニクス学会、日本体力医学会、日本トレーニング科学会、国際バイオメカニクス学会等会員
もり もと よし かつ 森 本 吉 謙	教授	筑波大学大学院 体育科学研究科	博士 (体育科学)	運動の主観と客観の対応関係
なん じょう みつ とし 南 條 充 寿	教授	筑波大学大学院 体育科学研究科	体育学修士	柔道コーチング
あ べ ただし 阿 部 肇	教授	仙台大学大学院 スポーツ科学研究科	修士 (スポーツ科学)	国際競技力向上への体育系大学としての寄与 ボート選手の呼吸筋トレーニングの有用性
かど の ひろ すけ 門 野 洋 介	准教授	筑波大学大学院 人間総合科学研究科	博士 (体育科学)	陸上競技をテーマにした バイオメカニクスの(技術的)、体力的研究

氏名	職位	最終学歴	学位	現在の研究内容等
しば やま かず ひと 柴 山 一 仁	講師	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育科学専攻	博士 (体育科学)	陸上競技短距離走のトレーニング法 に関するバイオメカニクス的研究
すず き りょう た 鈴 木 良 太	講師	仙台大学大学院 スポーツ科学研究科	修士 (スポーツ科学)	宮城県体操協会 理事 日本体操協会 男子強化部 強化部員 日本オリンピック委員会強化スタッフ (コーチングスタッフ) 体操競技のコー チングおよび方法論

〈スポーツ情報戦略・マスメディア領域〉

氏名	職位	最終学歴	学位等	現在の研究内容等
さい とう ひろし 齋 藤 博	教授	早稲田大学 第一文学部	文学士	スポーツとマスメディア。 日本マス・コミュニケーション学会会 員
あわ き かず ひろ 粟 木 一 博	教授	中京大学大学院 体育科学研究科 博士課程	教育学修士	スポーツ心理学を専門とし、研究分野は スポーツ選手の心理的サポートの実践研 究、イメージトレーニング、スポーツと コミュニケーション、対人関係に関する 研究。日本オリンピック委員会情報医科 学専門部会スポーツ科学委員会委員
ささ き てつ お 佐々木 鉄 男	教授	早稲田大学 教育学部国語 国文学科	文学士	スポーツと新旧メディア
いし まる いず ほ 石 丸 出 穂	准教授	筑波大学大学院 体育科学研究科	修士 (体育学)	バレーボールのコーチング論、スポ ーツ情報戦略

〈トレーナー領域〉

氏名	職位	最終学歴	学位等	現在の研究内容等
すず き しょう ぞう 鈴 木 省 三	教授	東北学院大学大学院 人間情報科学研究科	博士 (学術)	トレーニング科学を専門とし、日本ボブスレー・リュ ージュ・スケルトン連盟理事、同競技委員長、日本 オリンピック委員会選手強化本部長、ナショナルト レセン委員、日本体力医学会評議員、NSCA- Japan・Journal編集委員、宮城県体育協会会長 等を歴任する。
たか はし ひろ ひこ 高 橋 弘 彦	教授	東京農業大学大学院	博士 (環境共生学)	温熱生理学を専門とする。日本生気 象学会評議員、日本体育協会スポ ーツ指導員(スキー・ソフトボール)
うち まる じん 内 丸 仁	教授	順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科	博士 (医学)	様々な運動・トレーニングに対する 生理・生化学的応答と効果競技力向 上や健康の維持・増進のための低酸 素環境での運動やトレーニングにつ いて

氏名	職位	最終学歴	学位	現在の研究内容等
たけむら ひでかず 竹村英和	教授	東北大学大学院 情報科学研究科 博士課程	博士 (学術)	呼吸筋トレーニング・ウォームアップが呼吸筋力やスポーツパフォーマンスに及ぼす影響 高圧高酸素環境滞在による生理・生化学的応答と疲労回復
おだ けいご 小田桂吾	講師	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育学専攻	修士 (体育学)	専門：アスレティックトレーニング 研究テーマ ・スポーツ現場における傷害調査 ・スポーツ現場における傷害予防に関する検証 ・女子サッカー選手を対象としたパフォーマンス向上に関する検証

〈運動・スポーツ栄養学領域〉

氏名	職位	最終学歴	学位等	現在の研究内容等
ふじ い ひさお 藤井久雄	研究科長 教授	筑波大学大学院 体育科学研究科 博士課程	博士 (体育科学)	競技力向上や健康増進のためのライフマネジメント 〔運動（トレーニング）と食事のタイミングに着目して〕
なが はし まさひと 長橋雅人	教授	東京農業大学大学院	博士 (農芸化学)	栄養・食領域の教授学習過程に関する研究
はや かわ きみやす 早川公康	教授	東京大学大学院 総合文化研究科 生命環境科学系 身体運動科学 博士課程	博士 (学術)	スポーツ栄養、サプリメント、身体運動の動作改善 幼少年体育指導、健康運動指導、障害者スポーツ ACSM(アメリカスポーツ医学会)、日本体育学会、日本 発育発達学会 日本介護福祉健康づくり学会、日本スポーツ栄養学会 日本臨床栄養協会、日本健康栄養食品協会等の会員

〈健康福祉領域〉

氏名	職位	最終学歴	学位等	現在の研究内容等
はしもと みのる 橋本実	教授	埼玉医科大学大学院 臨床医学研究系	医学博士	循環器内科、整形外科を専門とし、 日本体育協会スポーツドクター、宮 城県競技力向上対策本部スポーツ科 学委員会委員、宮城県スポーツ医学 懇話会幹事を歴任する。
こまつ しょうこ 小松正子	教授	秋田大学 医学部医学科	医学博士	傲健康管理学、公衆衛生学を専門と し、宮城県環境審議会委員、健康都 市角田をつくる推進協議会委員、日 本疫学会評議員を歴任する。
こいけ かずゆき 小池和幸	教授	仙台大学大学院 スポーツ科学研究科	修士 (スポーツ科学)	福祉レクリエーション、セラピューテ ィックレクリエーションを専門とし、 福祉レクリエーションワーカーの専門 職性と制度化、福祉レクリエーション の役割と概念化に関する研究を行っ ている。
おざわ てるたか 小澤輝高	教授	東北大学 医学部医学科	医学博士	小胞体からのカルシウム放出機構の 解明 日本生理学会評議員

氏名	職位	最終学歴	学位	現在の研究内容等
おおやま さくこ 大山 さく子	教授	東北文化学園大学大学院 健康社会システム科学研究科	修士 (健康福祉学)	高齢者福祉、介護福祉
せきや たかあき 関 矢 貴 秋	教授	東北大学大学院 医学系研究科 博士課程	博士 (障害科学)	障害科学、福祉教育
しば はら しげき 柴 原 茂 樹	教授	東北大学大学院 医学研究科 博士課程修了	医学博士	生体色素(ヘム、ビリルビン、メラニン)が彩るストレス応答に関する研究 日本生化学会評議員(元理事)、日本色素細胞学会名誉会員(元会長)、国際色素細胞学会連合(元会長) 我が国で最も歴史のある英文総合医学雑誌 The Tohoku Journal of Experimental Medicine (1920年創刊)の編集長
かさ はら たけと 笠 原 岳 人	教授	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科	修士 (スポーツ科学)	リハビリテーションを専門とし、理学療法士の視点から健康支援や介護予防についての実践研究を行っている。日本理学療法士協会、日本応用老年学会、日本体育学会等会員

非常勤講師(平成30年度)

No	氏名	現職
1	奥田寛司	(株)リアセック基礎力開発支援チーム基礎力コンサルタント
2	鹿野裕美	宮城大学准教授
3	柳沢和雄	筑波大学教授
4	丸山富雄	元仙台大学教授
5	飯田稔	元大阪成蹊学園びわ湖成蹊スポーツ大学特別顧問
6	浅川伸	日本アンチドーピング機構専務理事
7	井上規之	北海道環境生活部文化・スポーツ局オリンピック・パラリンピック推進室主幹
8	大淵修一	東京都健康長寿医療センター高齢者健康増進事業支援室長
9	小室史恵	日本健康財団常務理事
10	菱沼ゆう	仙台市立南光台東小学校教諭

(順不同)

問い合わせ先

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南二丁目2番18号

仙台大学大学院事務室

電話 0224-55-5706